

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	地域で子育てを考えよう連絡会
-----	----------------

取組の名称	野外保育を楽しもう		
実施場所	川崎市子ども夢パーク黒川青少年の家 親子地区 ^{…等々} 広場		
対象地域	川崎市		
対象地域の特色・課題	コロナ中で親子イベント等が激減 そんな中、外でのびのびと遊べる場、交流 スペースを作り、仲間作りを活、せいか。		
取組の趣旨・目的	外遊びを通して、地域の交流を深める。 自主保育を知ってもらい、野外保育の よさを知ってもらう。		
実施内容・実施スケジュール	1ヶ月に各団体がオープンデイを実施。 その他、月1回ぐるぐるミーティングと 定例会を実施。		
参加者の年代	0才～6才 20代～40代	定員 (1回あたり)	約15～20人
実施頻度	月に12～15回程	活動日数 (年間)	約122 日

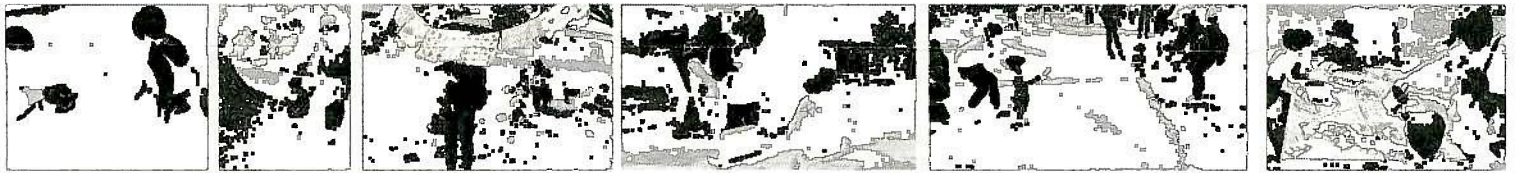
<p>スタッフ体制</p>	<p>自主保育現役 = OB 川崎市子ども夢パークフーリーダー</p>
<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>川崎市子ども夢パーク ・フくりフブける会(市民支援委員会主催) に出席 ・イベントにての参加 子ども文化センター(宮崎台子ども 文化センター…等)</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>コロナ2年目…感染対策をおこない 活動回数を増やすことができました。 何度も遊びに来てくれるリピーターも増え 親子の交流の輪が広がっていると感じます。 自主保育に興味を持ってくれる方も 増えました。</p>

自主保育 ぽけっと

外遊びでのびのび子育て♪
一緒に育ち合う仲間募集!

やりたい気持ちや運動が、
だけど、みんながなくて、
自分だけが空っぽ。
それではいけない。
それぞれのカラーで、
ぽけっとは無関係!

一緒にいられる
かけかえのほの時間。



「自主保育」って何？

幼稚園や保育園に代わり、0～6歳
の子どもの育ちの場を親達の手で
作る活動です。野外での外遊びを
中心に、大人も子どももやりたい
ことを話し合って運営し、楽しく
活動しています。

子どもが自由にのびのび育って
いく姿を親同士で見守っています。

身近な自然や地域の中で過ごすこ
とで、子どもにも大人にも心地よ
い育ちの場にしたいと考えていま
す。



Instagram
アカウント
も
更新中♪

○2022年度活動予定○

ぽけっとオープンデー

毎週水曜日 10:30～13:30 @川崎市子ども夢パーク

あおぞらピクニック (共催)

月曜不定期 @多摩川河川敷 せせらぎと親子広場

むしとこ (共催)

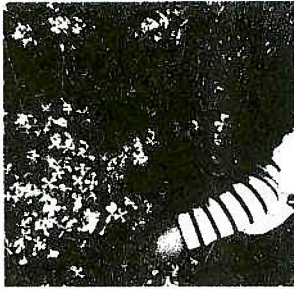
金曜日 2回 @橘公園

ぽけっとオープンデー、あおぞらピクニック、むしとこは、
会員以外も気軽に参加できる外遊びの会です。
ぜひ遊びに来てくださいね～♪

その他不定期でも自主保育活動をしています!
ちいくれん(地域で子育てを考えよう連絡会)への参加や自主保
育の他会との合同活動、近隣の公園やせせらぎへお散歩など。



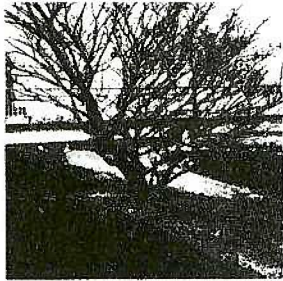
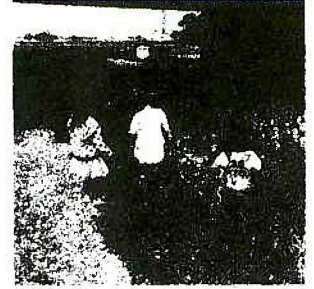
連絡先 takatsu_poketto@yahoo.co.jp



地域で子育てを考えよう 連絡会

ちいくれん

2021年度第2号 2022年1月10日発行



こんにちは！私たちは川崎市とその近郊で自主保育をしている仲間です。

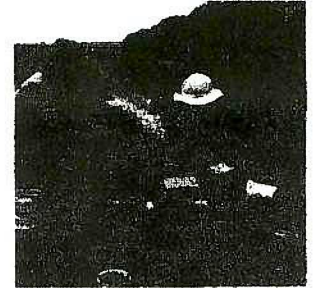
自主保育とは、0～6歳の就学前の子どもたちの生活の場・成長の場を、
親たちの手で地域の中に作っていく活動です。

公園など地域全体をフィールドにし、親が交替で保育し、

小さい子も大きい子も一緒になって遊びます。

土や草、虫などの身近な自然と思いっきり遊び、

ケンカや仲直りを繰り返しながら自分の力で育っていく子どもたちを、
親たちみんなでうちの子もよその子も関係なく見守り、日々活動しています。



自分のことだけに時間をつかえる毎日

夫婦の分の家事をすれば、あとは自由にできる日々。

親になり、わが子と過ごすようになったら、なにもかも全てが、
思い通り進まなくなりました。

「なにもかもが全て思い通りに、というわけにはいかなくなりました。」

じゃなくて、

「なにもかも全てが、思い通りに進まなくなりました。」

です。

今日はあれをやっておかないとな

私の日課のあれをする時間だけは確保したいな

以前はほんのささいなことだったはずのそんなものすら、手が届かないのが当たり前になって。親になることも、こどもと日々を過ごすことも、望んで、楽しみにして、親になったはずでした。それでもいろんな気持ちが積み重なって精神的につらくなる時もあり、自分が母になるのは、向いてなかったんじゃないかと思うことすら、ありました。

私は、産育休を経て職場復帰しました。長女は保育園に入園しました。そして、2歳になる直前、東日本大震災が起きました。会社は千代田区にありました。停電が原因なのか、保育園の電話は繋がりませんでした。わが子の安否がわからないまま会社を出、大混乱の都内をひたすら歩いて三軒茶屋の同僚の家に深夜過ぎに着き、そこでやっと夫に連絡が取れ、娘は無事に帰宅しているから、朝電車が動いていたら帰ってくれば大丈夫、ということになりました。

翌朝、帰宅した私に、娘は抱きついて泣きました。保育園の初日から、私と離れるときも泣くことがなかった子が。そこから私の心は、ずいぶん変わりました。せめてこどもの小さなうち

は、近くにいたいと願うようになったのです。その後二女も誕生し、私は会社を辞めました。わが子のそばにいたいから会社を辞めるんだもの、これはもう自主保育でしょ！というところから、早いものでもう10年たちます。

子育てに特殊な理想があったわけでもなく、子育てに自信があったわけでもなく、それどころか私自身は外遊びが好きなわけでもありませんでした。ただ、せめて小学校に入るまでは、何かあった時にすぐに駆け付けられる距離で、わが子が自分の力で成長していくのを見ていたい、その気持ちがすべてのベースになっています。

この10年間、私と一緒に過ごしたちいくれんのこどもたちは、こどもが成長するって、育つってこういうことだよ、というのをいろんなかたちで私に見せて教えてくれました。一緒に過ごしたおとなたちが、大丈夫、信じて寄り添って見守っていれば、こどもはちゃんと伸びていくから！という気持ちを共有してくれました。

ちいくれんは、そんな仲間たちのつながりです。私はみんなに育ててもらって、少しずつ「親」になっていけているように思っています。

もし、お近くに自主保育グループがあったら、私たちと一緒に、遊んでみませんか。

ちいくれんの仲間たちは、Instagramや外遊びの会などで、皆さんとつながれるのを待っています。お気軽にお問い合わせください。

私の話ばかり書いてしまいましたが、ちいくれんの仲間には聞けば、そのひとりひとりに、物語があるはず。このレターを手にとってくださったあなたの物語も、どこかで伺えたらとても嬉しいです。

(文: 自主保育B.B.だん 大西)